



いのちの現場からのメッセージ

養護教諭 六郷 恵子

私はその日、「いのちの教室」の講師の先生に会うために、済生会高岡病院の産婦人科病棟を訪れていた。もう夜の8時を過ぎているというのに、ナースセンターは賑わい、助産師、看護師が忙しく走っていた。ナースセンターの中心に置かれてある心電図モニターが強調しているかのように点滅していた。たった今、分娩が終わったようである。これが助産師、三歩一貴子さんの職場「命の現場」である。

去る11月14日に、済生会高岡病院の助産師三歩一貴子さんによる2年生対象の「いのちの教室」が開催された。ご自身の助産師としての臨床経験を交えながら、生命の誕生のしくみや、胎児の成長やお産についてお話して下さった。出産する過程で、胎児が、陣痛というストレスに負けないで、力を振り絞って誕生したことを学び、生徒たちは自分は生きる力をもって生まれてきたのだということを実感した。折り紙に空けた針の穴は、命のもとである受精卵の大きさであることを知り、胎内で280日間、2000倍の大きさに成長することに驚いていた。体験学習では、妊婦ジャケットを装着しての妊婦体験や新生児の抱っこ体験もさせていただいた。新生児の人形の目を見つめながら柔らかな表情で抱いている生徒の姿は優美で、まるでマリア様のようにであった。妊婦ジャケットを装着してもらった男子生徒は、初めは照れくさそうであったが、そのうちに座ったり歩いたりしている姿が見られるようになった。

本校は、「いのちの教室」を開催してから今回で10年目を迎えた。これも、保護者の方々の理解や支援、高岡厚生センター様のご協力のもとより、「生きる力を生徒たちに届けたい」と強く願っている助産師さん方の熱意のおかげである。「生きていくのが辛い」「私なんか死んでも誰も悲しんでくれない」と思うことがあるかもしれない。そんな時「いのちの教室」のことを思い出して欲しい。全ての力を振り絞ってこの世に誕生したみなさんは生きることを選びとったことを。



12月の行事予定

3日(月) 期末考査	20日(木) 保護者会、給食終了
4日(火) //	21日(金) 終業式
5日(水) //	23日(日) 天皇誕生日
ものづくり講演会	24日(月) 振替休日
9日(日) 氷見オープンソフトテニス大会	25日(火) 冬季休業開始(～1/7)
14日(金) 球技大会	
19日(水) 保護者会	



「須加野活動」 11月19日（月）

委員会に分かれ、学校敷地内や学校周辺の清掃を行いました。田んぼの中や溝にあったゴミを拾ったり道路脇の落ち葉を集めたりし、地域への感謝の気持ちを表しました。



「りんご狩り」 11月22日（木）

雨の降る寒い日でしたが、元気にりんごを収穫させていただきました。収穫時は雨もやみ、みんなで協力して作業することができました。蜜がいっぱいだった国吉りんごはとてもおいしかったです！



「1年ダンス発表会」 11月28日（水）

体育でダンスの発表会を行いました。課題曲は1分52秒。話し合いがうまくいかずに投げ出してしまいそうになったり、動きをよくしようと意見を戦わせたり、どの班にもたくさんのドラマがありました。一時はどうなることかと心配になることもありましたが、練習の成果を発揮し、本番はみんな一生懸命にステージで発表しました。また、ステージ下で見ている仲間も手拍子をして盛り上がり、温かい雰囲気の中でよい発表会になりました。



《生徒の声》

- はずかしがらずにダンスをすることができました。
- 練習を始めたころはまとまりがなかったけれど、時間がたつにつれまとまりができた。初めてダンスをしたときは、はずかしいし全然できなくて心配だったけど、チームのみんなと協力して、日に日に上達し、本番では練習の成果を発揮して楽しんで踊れたし、達成感がすごくあったので大満足です。
- 最初はうまくまとまらなかったり、振り付けがなかなか決まらなかったりして大変で難しかったけど、どんどん班のみんながアイデアを出してくれて、チームワークも発表会も最高になったので大満足です。

